

令和7年度 旧西条管内生徒指導夏季研修会 実施報告書

1 日 時 令和7年8月5日(火) 14:00~16:00

2 場 所 新居浜市市民文化センター(中ホール)

3 講演内容

- ・ 演 題 「愛のつながりで」
- ・ 講 師 新居浜子ども食堂 共同代表 広瀬 香織 氏

(1) 「新居浜子ども食堂」について

ア 新居浜市の現状

子ども食堂とは、子供が1人でも行ける無料または低額の食堂のことである。地域食堂やみんな食堂という名称で呼ばれているところもある。子ども食堂は、民間発の自主的・自発的な取組である。新居浜市には、2022年度で生活保護世帯が957世帯、1118人いる。2021年国勢調査では、母子家庭が1003世帯、父子家庭が189世帯あることが分かっている。住友発祥の町であり、比較的年収が高い世帯もあるが、経済的格差が大きいのも事実である。



<写真1 研修会の様子1>

イ 新居浜子ども食堂の成り立ち

2004年のある日、教会に逃げ込んできた当時中学1年生の男子がいた。いじめ問題やひとり親家庭、ゴミ屋敷などで、家にも学校にも居場所がなかった。様々な環境が原因で、苦しんでいた男子に対し、教会が勉強や料理の練習などを支援した結果、学力・生活力が身に付き、本来の力が発揮できるようになった。その後、子供たちが教会に集まるようになり、居場所づくりのため、全国募金を行い、学習館を設立した。そして、協力者が集まり、正式に「子ども食堂」を名乗るようになった。そして、今では月1度の弁当の配布、教会ランチ、学習支援、困っている人への食料配布、シングルマザーの集いでの支援、アルコール依存症の方への回復ミーティング、カウンセリング、冠婚葬祭の礼服・着物の貸出し、学生服のリユースなど活動は多岐に渡っている。

(2) 貧困への対抗

ア 貧困が子供たちに与える影響

子供の貧困は、「貧困の連鎖」を生み出す可能性がある。経済的困窮から不十分な衣食住、適切なケアの欠如、虐待・ネグレクト、文化的資源の不足、低学力・低学歴、低い自己評価、不安感・不信感、孤立・排除など、様々な連鎖を生み出しかねない。さらに、それらが若者の貧困、大人の貧困、次世代の子供の貧困、不利の累積、ライフチャンスの制約、貧困の世代問題連鎖となっていく。これらの悪循環を断ち切らなくてはならない。



<写真2 研修会の様子2>

イ 各種機関等との連携

新居浜子ども食堂は地域・自治会、学校・児童相談所・警察、行政・企業などの各機関と連携して様々な活動に取り組んでいる。学生服のリユース、学習支援、座談会などの活動を行い、貧困による子供たちへの影響を少しでも減らせるように日々尽力している。その結果、今では子ども食堂は、子供約 50 名、高校生ボランティア 15 名、大人ボランティア 13 名、大人利用者約 50 名となるなど、2004 年当初から延べ約 3 万人以上が利用している。

ウ 「もったいない」を「ありがとう」へ

地域社会にあふれる「もったいない」をうまく活用する必要がある。例えば、食品製造会社の印刷ミスや箱の潰れによる廃棄品、卸売業者の余剰食品、一般家庭の贈答品やフード・ドライブなどを寄贈し、生活困窮世帯や子ども食堂などに支援するフードバンクの仕組みである。新居浜子ども食堂では、フードバンクと連携して、地域の子供たちを支援する取組を行っている。

(3) 奇跡の町「ロゼト」

新居浜子ども食堂が目指すものは、自殺率が 0 % である奇跡の町「ロゼト」である。アメリカのペンシルベニア州の人口 1000 人ほどの町である。1950 年代から 1960 年代にかけて、心臓疾患の死亡率が近隣の町に比べて極めて低く、注目を集めた。喫煙、食事、運動などの要因では説明ができず、自殺率も 0 % であることから、奇跡の町と呼ばれた。研究の末に「住民の共通の目的意識、連帯感」が奇跡の中身であると断じたのである。ロゼト社会全体が大家族のように機能し、コミュニティに支えられているという安心感が免疫機能を高め、心筋梗塞や突然死も極めて低いものとなっていた。誰一人見捨てないという社会関係資本が充実していた。新居浜子ども食堂は、このような奇跡の町「ロゼト」を目指している。コミュニティに支えられているという安心感のある居場所づくりの大切さを噛み締め、子ども食堂が温かい繋がりを提供し、第 2 のふるさととなるよう、日々の活動に一生懸命に取り組んでいる。

(4) まとめ

新居浜子ども食堂は、食事の提供だけでなく、子供の居場所の提供や学習支援など、様々な活動に取り組み、貧困の連鎖を断ち切ろうと日々努力している。子ども食堂によりもたらされる効果として、個食や孤食の予防、地域コミュニティの活性化、子供たちの居場所の確保などを実感している。子ども食堂への関わりを通して、新居浜市が奇跡の町と呼ばれた「ロゼト」のような、明るい社会になることを目指している。子ども食堂があることによって、人々の意識を変え、皆を巻き込んで社会を変えていきたい。社会全体で関わり合って、子供たちを支えていけるよう、新居浜子ども食堂は、これからも活動に取り組んでいく。

(5) 新居浜子ども食堂への声

- 新居浜子ども食堂では、様々な特性をもった子供たちも多いが、居場所を見付け、生き生きと活動することができている。
- 不登校の孫が学校に行き始めた。
- 子ども食堂へのボランティアを通して、組織に貢献しているという自己有用感を高め、子供の吃音の改善が見られた。
- ボランティアのお兄さんやお姉さんがとても優しく、楽しく過ごせている。
- 偏食の改善が見られた。
- 子ども食堂だけでなく、フードバンクと提携していることがありがたい。
- ボランティアをして自信が付き、就職できた。